

第13章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

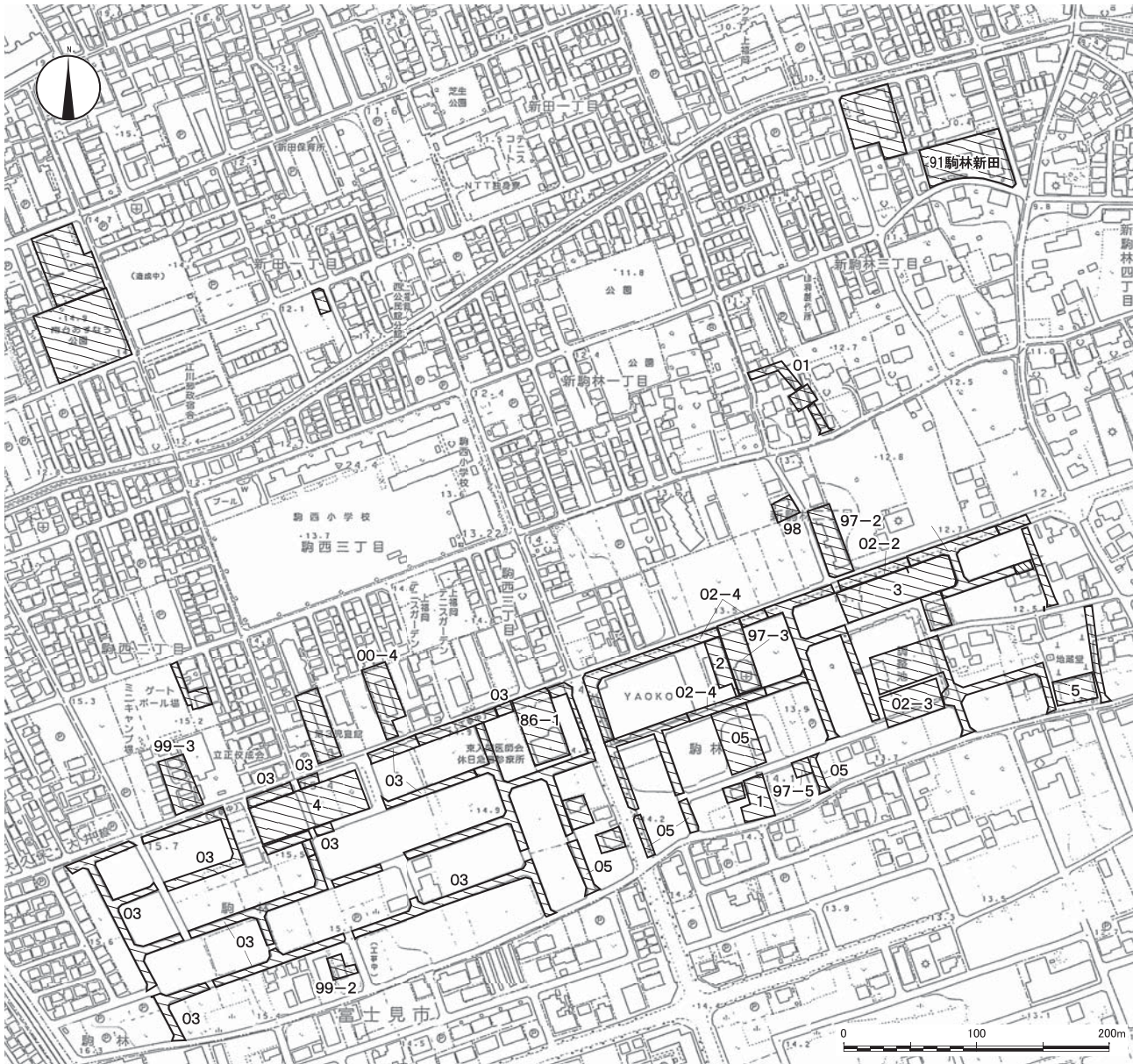
駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12~15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの広大な範囲であったが、2002年から2004年にかけて行なった駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大半の地域で遺構を確認できなかったため、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。

第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した

溝の配置を再検討した結果、一辺140~160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に遺跡範囲の変更増補を行なった。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ、部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側に地下式坑を検出した駒林新田前遺跡、500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。

2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶匙跡を検出する。周辺の遺跡の様相から遺跡の時期は中世から近世と思われる。



第35図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

II 駒林遺跡第4地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2007年4月27日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲外に位置するが、面積が1,000㎡を越えるため、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請者と協議の結果、遺構の分布を確認し遺跡範囲を明らかにするための試掘調査を実施した。試掘調査は同年6月11日から13日まで行なった。幅2mのトレンチ2本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の

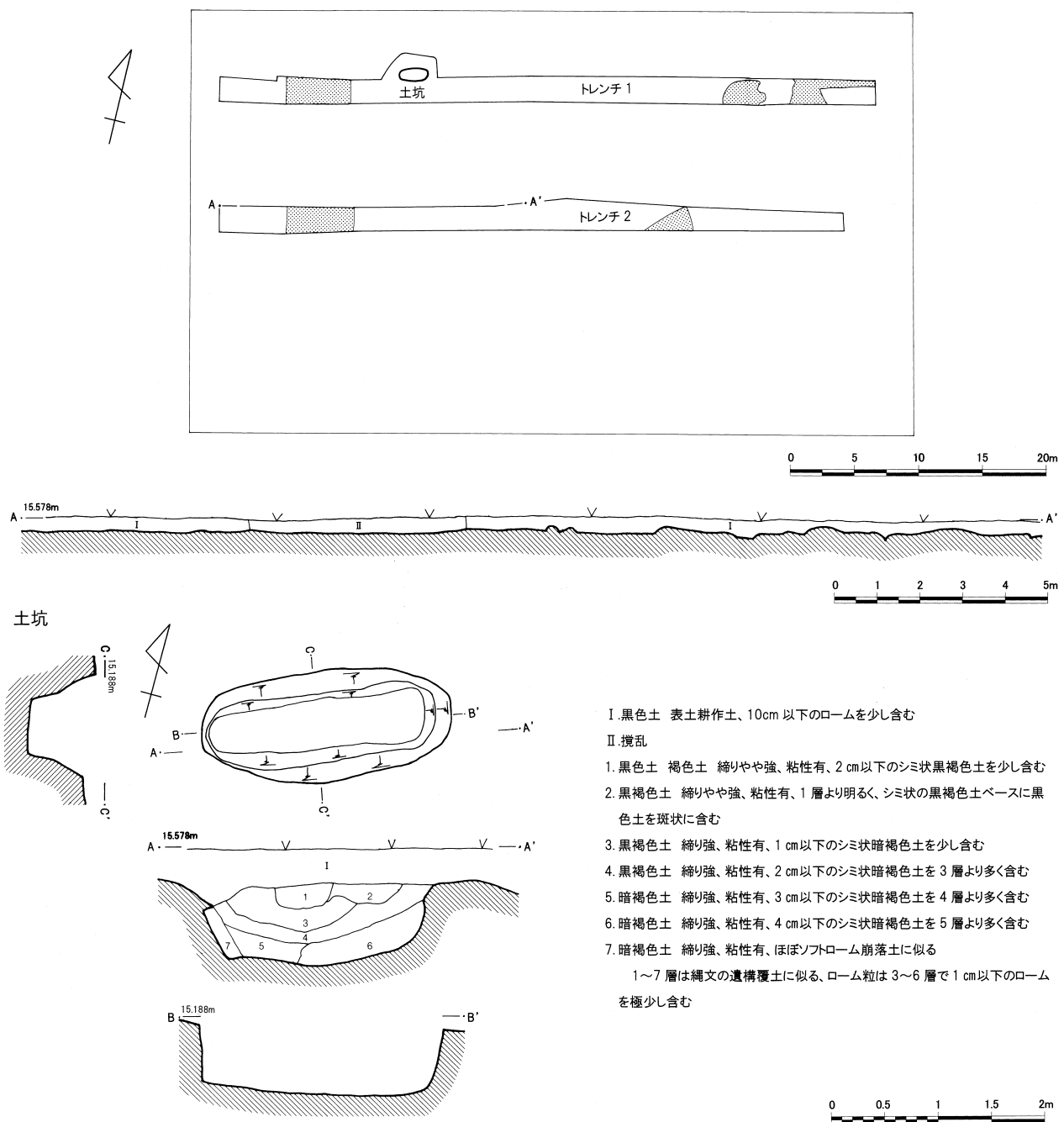
結果、土坑1基を検出した。遺構の時代は、覆土層の観察から縄文時代とみられる。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構の確認・検出を行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①土坑

調査区の北西部で土坑1基を検出した。覆土層の観察から縄文時代の時期とみられる。

土坑の平面形態は長方形を呈し、規模は確認面径236×105cm、底径205×47.0cm、深さ65.8cmを測る。



第36図 駒林遺跡第4地点遺構配置図 (1/500)、土層図 (1/150)、土坑 (1/60)



駒林遺跡第4地点試掘調査近景



駒林遺跡第4地点試掘調査トレンチ1



駒林遺跡第4地点土坑1



駒林遺跡第4地点試掘調査風景



福岡新田遺跡第1地点試掘調査トレンチ1



福岡新田遺跡第1地点試掘調査トレンチ2



福岡新田遺跡第1地点試掘調査トレンチ3



福岡新田遺跡第1地点土坑4、溝1